

帝国主義の階級反革命を粉砕し全世界の帝国主義を打倒せよ！ フィーリン主義との國際党派闘争を組織し、世界プロレタリア革命—世界プロ独立・共産主義を樹立する世界唯一党を國際階級斗争の最前線に躍進せよ！

10・29集会に結集を

…P2~3

三里塚現地闘争に起て

…P4~5

◆フィリピン訪問記

…P6~8

1989年

10月1日

第411号

編集発行人 高木一夫

一部 200円

# 烽火 NOROSH-

## 共産主義者同盟（全国委員会）

■ 大阪戦旗社 大阪市北区本庄西2-8-19

明豊ビル401号 大労協内

TEL.(06)371-3706

○郵便振替 大阪3-63333 高木一夫

○銀行口座 第一勧銀 515-1058150 高木一夫



# PACEX粉碎闘争を 国際的な共同闘争に！

太平洋全域にわたる空前の規模の米軍の軍事演習—PACEX 89（八九年度太平洋演習）が九月上旬から始まった。PACEX 89は、陸海空三軍と海兵隊を傘下にもつ米太平洋軍が総力をあげているもので、九、一〇の両月、二ヶ月間におよぶ。PACEX 89には米軍八万人の他、フィリピン、韓国、インドネシア、カナダ、オーストラリアが参加し、日本の自衛隊、総数六万人が事実上この米軍の演習に加わる形で、米軍との軍事演習を行う。

PACEX 89は、太平洋地域における史上最大、かつ、米軍の陸海空・海兵隊の四軍統合演習という過去に例を見ないものであるとともに、参加国の多さ、中でも日本の中衛隊の参加が内外の関心を集めている。マスコミは自衛隊の参加を「集団的自衛権の行使か否か」と憲法の解釈問題に落とし込めていたが、問題はすでにそこにあるわけではない。PACEX 89は、アジアにおける反共軍事同盟の形成をめざしたものであり、自衛隊を実働部隊へと押し上げようとするものである。その矛先はアジアの階級闘争・革命運動、とりわけフィリピンの革命運動に向けられている。

PACEX反対を訴えデモ行進する関西実行委員会(9月3日・京都)

われわれは、PACEX 89の反人民性と反革命性を全民族の前に暴き出そうではないか。そして、國際主義プロタリアートへの飛躍をかけてPACEX粉碎闘争を国際的共同闘争として組織しようではないか。立ち上がるときは今である。

## PACEX反対／プロレタリアートの 国際共同闘争を！ 10・29関西集会

● 日時 10月29日(日)午後2時

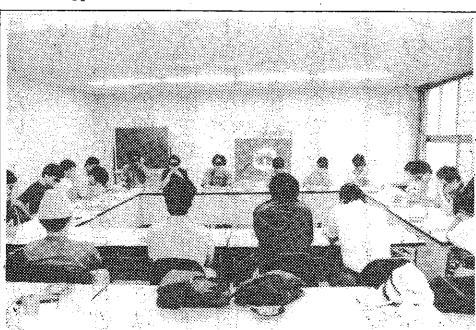
● 場所 京都寺部落解放センター

● 主催 PACEX反対／プロレタリアートの  
国際共同闘争を！ 関西実行委員会

# 反共軍隊としての 自衛隊登場は必至

# 闘う労働者・学生はPACEX 粉碎闘争に総決起せよ!

**10・29集会への結集を訴える**



関西実行委結成会議(9月3日)

二ヶ月にわたってくり広げられる太平洋演習(PACEX'89)が開始されて一ヶ月がたとうとしている。米帝はこの大軍事演習を一年前から計画していたにもかかわらず、その実施計画の一切を厳しい報道官制のもとにおいてきた。日帝・防衛庁も同じようにその全貌を語つてこなかった。しかし、演習がすむにつれてその全貌と意図が明確になりつつある。

## ソ連封じ込めとアジア革命運動の鎮圧狙いPACEX

実際、この太平洋演習は米太平洋軍が太平洋で実施する演習では史上最大であり、かつ初めての陸海空・海兵隊の四軍統合演習である。報道によれば米帝は、四つの空母機動部隊を中心とし、米軍艦約六十隻と航空機五百機、海兵隊一個師団、陸軍二個師団(米軍約八万人)を参加させ、これらは米本土、ハワイ、日本、韓国、フィリピン、マリアナの米軍基地からほとんど総出動となる規模であるといわれている。演習場所は米西海岸、ハワイ、アリューシャン、日本、フィリピン、南シナ海を中心に順次移動していく。自衛隊は、陸上自衛隊が米海兵隊と十月六日から十一日にかけて実戦演習を行い、さらに米陸軍とも十月十六日から三十日までの実戦演習を北海道大演習場で行うと発表している。また海上自衛隊は、九月二十九日から十月十四日まで、その主力の四個護衛隊群や一個掃海隊群、潜水艦など百隻、航空機百二十機、兵員三万人を動員し米海軍との実戦訓練を行なう。自衛隊は、その作戦部隊の全力、航空機五百三十機、兵員三万三千人を動員し、九月二五日から

十月四日まで米第五空軍六十機と実戦訓練を行うとされている。

これだけの大演習を、日米帝がどのような演習シナリオをもつて遂行するかは、彼らがいく

ら秘密にしようとその意図はおのずと鮮明である。PACEXは、米軍と各国の個別順次演習の形をとっても、実戦となればそれは同時にどこにどこからでも発動されるのであり、当然そのことを想定したものである。そうであるがゆえに、このPACEXの全体像は鮮明に次のことを意味している。すなわち、ソ連、朝鮮民主主義人民共和国、ベトナムなどを一齊に封じ込め(このとき自衛隊は対ソ・対北朝鮮戦でこれを運動して、東アジア諸国の内乱を鎮圧すること)がはっきりと想定されているということにある。その中心であり具体的に想定されているのが、一つはフィリピンである。この作戦の過程で、太平洋に浮かぶ空母としてフィリピンの米軍基地はフル稼動し、フィリピン軍はこの米軍基地の防衛を主任務とし、完全な内乱鎮圧態勢に突入、すなわちフィリピン共産党・新人民軍との戦闘態勢に入ることまでもが想定されているのである。

われわれは、PACEXは第一に、ソ連を中心とした社会主義国を軍事的に封じ込め、アジアにおける反帝民族解放・社会主義革命を鎮圧するための帝国主義の新たな反革命軍事同盟の実践的形成を意味していること、第二に、アジアにおける日本帝国主義の反革命的な役割をさらに増大させていく第一歩となる性格をもつものである。そして第三に、アジアのプロレタリアートにとって、フィリピンをはじめとしたアジアにおける革命運動を防衛し、この新たな反革命同盟といかにたたかうのかという課題をつきつけるものであるということをこれまで主張してきた。そして、だからこそ国境を越

えたプロレタリアートの国際的共闘と統一行動の組織化がきわめて重要なことである。

## プロレタリアートの国際的共闘と統一行動の組織化を

今秋のPACEX粉碎闘争をとおして、アジアにおけるプロレタリアートの国際的共闘と統一行動を組織していくための最初の実践が開始された。それはフィリピンと日本の先進的労働組合・大衆団体によって、今秋PACEX粉碎闘争をフィリピンと日本の労働者人民の国際的統一行動として組織しようとする努力として進んできた。フィリピンのバヤン(新民族主義者同盟)の呼びかけに応え、関西では「PACEXに反対する関西キヤンペーン」が結成され、広範な共同声明運動が開始されている。われわれは、このような国際的な共闘と統一行動を発展させようとする最初の実践を断固として支持してきた。そして今後もあらゆる機会をとらえて、アジアにおけるプロレタリアートの国際的共闘と統一行動をつくりだしていくことを全力で推進していくであろう。

アジアにおけるプロレタリアートの共同の闘争をつくりだしていくことは、今日の、そしてこれからの国際階級闘争とわが国階級闘争が切実に要求するものである。

今日、国際共産主義運動の否定的現状は、中国六・四事件などに象徴される一国社会主義路線の破壊として進行している。権力を奪取したプロレタリアートの党は、他の革命闘争への連帯と無条件の援助を組織し、この実践をとおして自国のプロレタリアートを国際主義プロレタリアートとして形成しつづける道を進まなければ

ればならない。だがソ連や中国の共産党は、この義務を完全に放棄している。一方、国際帝国主義の包囲のなかで孤立しながらも、反帝民族解放・社会主義革命の勝利のために、全世界のプロレタリアートに国際的連帯と援助をもとめるたかいがフィリピンをはじめとして存在している。

PACEXでその動きを開始したように、日本帝国主義とアジアにおける反帝諸国は共同でソ連を封じ込めながら、アジアにおける反帝民族解放・社会主義革命勢力を解体させるために着々とその準備を進めている。このような動向はますます強まり、日帝はその中心にならうようになっていくであろう。

だからこそ、このような帝国主義の反革命軍事同盟とたかいが、アジアにおける反帝民族解放・社会主義革命を防衛する国際的な反帝闘争こそが、アジア各国のプロレタリアートによって全力で準備されていかねばならない。またこのような国際的共同闘争に各国プロレタリアートを広範に組織することをとおして、国際共産主義運動の否定的現状を突破する新たな主体、国際主義プロレタリアートを全世界に建設していくたかいが本格的に推進されなければならない。われわれは今秋PACEX粉碎闘争をめぐって開始された国境を越えた最初の歴史的試みをさらに推進していかなければならぬ。

このようないたかいにわが労働者階級を組織していくことは、とりわけ重要な意義をもつていている。そして、それはわが国階級闘争の要請である。

今秋PACEX粉碎闘争をとおしてわれわれは、プロレタリアートの国際的共闘とその統一行動を呼びかけるとともに、これと結合して、わが国左派労働運動と左派学生運動の根本的な再生のためのたかいを発展させることを提起してきた。

今日の階級闘争において、われわれがぜひとも突破していかなければならぬことは、総評の解体や戦後反戦反安保闘争の崩壊に抵抗しようとしてきた左派労働運動や左派学生運動などができる、これまでの基軸ではもはや抵抗しつづけることができず、日帝の国際帝国主義への転換に根拠をもつたわが国階級闘争の構造的変化と、広範な帝国主義的排外主義の自然発生の前に後

だしたからである。一月にはいよいよ新「連合」が発足するとともに、これと結合した第二保守党形成的動きが社会党のより一層の右傾化を条件に始まりつつある。これらは、西欧帝諸国に典型的に見ることのできる保守党と本質的には何ら変わることのない社会党（フランスなど）や労働党（イギリスなど）のもとに人民の不満や怒りの大半が吸収されていく時代の到来を予見させるものである。そしてまた、第一保守党にも吸収されない政治運動が「緑の党」的なさまざまな帝国主義本国に発生しつづける小ブルの改良運動とその党派へと収斂されていくという否定的徵候さえ現れつつある。わが国の労働者人民が、このようないたかいが侵略する時代を前に、それと根本的にたかいえず帝国主義的排外主義に屈伏し、無残な敗北に至るのは必至である。

わが国の労働者人民をとりまくこのような否定的現状を抜本的に変革していく道は、経済闘争や民主主義闘争の戦術的急進化の上にはいささかも展望することはできない。要求されいる新たにたかいは、第三世界における階級闘争・革命運動への国際主義的連帯運動であり、国際主義に立脚した日帝との正面戦に労働者人民を組織していく国際主義政治闘争を発展させていくことにある。そして国際的なプロレタリアートの共闘と統一行動へとわが労働者人民を組織することは、国際的な労働者階級の実践的団結を促進し、労働者人民を国際主義プロレタリアートへと形成する重要な事業に他ならない。今秋PACEX粉碎闘争をとおして形成されたその最初の歴史的事業を、断固として発展させていかなければならない。

退を開始していくという否定的現状にある。

この否定的現状を突破していくためには、階級的労働運動に基盤とした広範な労働者を、第三世界の階級闘争・革命運動と連帯した自国帝国主義との闘争、日帝の侵略反革命戦争出動を阻止するたかいへと全力で組織していくことこそが必要である。それなくしては、多くの労働者人民が日本帝国主義の擁護者へと組織せられ、第三世界の階級闘争・革命運動と敵対させられていくこれからの一時代のわが国階級闘争の発展は、いかなる意味でも展望できないからである。先進的労働者は新「連合」の内と外へと分断させられていく労働者大衆を、他国との階級闘争へと全力で組織していくために奮闘しなければならない。

一方この間、徐々に左派労働運動や学生運動のなかで国際連帯のさまざまな取り組みが開始されつつあることも事実である。これらは全力で推進されなければならない。しかし他方で、

こうしたからである。一月にはいよいよ新「連合」が発足するとともに、これと結合した第二保守党形成的動きが社会党のより一層の右傾化を条件に始まりつつある。これらは、西欧帝諸国に典型的に見ることのできる保守党と本質的には何ら変わることのない社会党（フランスなど）や労働党（イギリスなど）のもとに人民の不満や怒りの大半が吸収されていく時代の到来を予見させるものである。そしてまた、第一保守党にも吸収されない政治運動が「緑の党」的なさまざまな帝国主義本国に発生しつづける小ブルの改良運動とその党派へと収斂されていくという否定的徵候さえ現れつつある。わが国の労働者人民が、このようないたかいえず帝国主義的排外主義に屈伏し、無残な敗北に至るのは必至である。

わが国の労働者人民をとりまくこのような否定的現状を抜本的に変革していく道は、経済闘争や民主主義闘争の戦術的急進化の上にはいささかも展望することはできない。要求されいる新たにたかいは、第三世界における階級闘争・革命運動への国際主義的連帯運動であり、国際主義に立脚した日帝との正面戦に労働者人民を組織していく国際主義政治闘争を発展させていくことにある。そして国際的なプロレタリアートの共闘と統一行動へとわが労働者人民を組織することは、国際的な労働者階級の実践的団結を促進し、労働者人民を国際主義プロレタリアートへと形成する重要な事業に他ならない。今秋PACEX粉碎闘争をとおして形成されたその最初の歴史的事業を、断固として発展させていかなければならない。

この否定的現状を突破していくためには、階級的労働運動に基盤とした広範な労働者を、第三世界の階級闘争・革命運動と連帯した自国帝国主義との闘争、日帝の侵略反革命戦争出動を阻止するたかいへと全力で組織していくことこそが必要である。それなくしては、多くの労働者人民が日本帝国主義の擁護者へと組織せられ、第三世界の階級闘争・革命運動と敵対させられていくこれからの一時代のわが国階級闘争の発展は、いかなる意味でも展望できないからである。先進的労働者は新「連合」の内と外へと分断させられていく労働者大衆を、他国との階級闘争へと全力で組織していくために奮闘しなければならない。

一方この間、徐々に左派労働運動や学生運動のなかで国際連帯のさまざまな取り組みが開始されつつあることも事実である。これらは全力で推進されなければならない。しかし他方で、

わわれわれは、これらのたかいの先頭でたたかいたく決意である。

すべての革命的労働者・学生は国際主義の旗のもと、共産主義者同様に結集せよ！ともにたかわん！

# から国際主義政治 決起をつくりだせ

## 10・15闘争における任務

きたる一〇・一五闘争は、アジア・太平洋地域を硝煙でおおうPACEX大軍事演習のただ中で開催される。また、自民党一党支配が継続するのか、それとも連合政府が成立するのかを最大の焦点とした衆議院解散・総選挙へと向かう政局流動のただ中で開催される。先進的労働者・学生は、このような流動の中で、先進的農民とともに新たなたかいと踏みだしていかねばならない。われわれは、三里塚闘争をたたかい抜いてきた先進的農民や先進的労働者・学生に、次のような任務を提起する。

その第一は、PACEX粉碎を鮮明にかかげ、一〇・一五闘争をアジアの労働者人民との国際地強奪に反対し、農地を死守せんとする農民の

三里塚一期工事強行の攻撃は、日本帝国主義の戦争準備の重要な一環である。

日帝ブルジョアジーにとって日米安保体制のもとで、いつでも軍事空港に転化しうる巨大空港の建設は、決定的に重要な位置をもっている。日帝は、自衛隊の海外派兵の策動を進めており、三里塚空港の軍事利用の可能性はいっそう高まっている。このかん日帝は、「西側民主主義陣営の一員としての自覚」のうえに、「テロ対策」「地域紛争の解決」（「テロ」や「地域紛争」とは帝国主義の支配に対する人民のたたかいでに対する帝国主義の側の歪曲したとらえ方にほかならない）のために「国際的に貢献」しなければならないと宣伝している。このもとで日帝は、米軍とのいっそう緊密な協力体制をつくるとともに、自衛隊を「国連軍」の一員として「地域紛争の監視団の一員として派遣」するこ

二三[年間にわたるたかい]の中で、「反権力の砦」としての位置を三里塚闘争は築いてきた。これに対して日本帝国主義は、機動隊の暴力によって反対派を弾圧するとともに、「日本の国際化と繁栄のために空港が必要」というキャンペーンをくり返し、三里塚闘争への孤立化攻撃を続けてきた。

小川源さんははじめ反対同盟員が、「ひと握りのブルジョアのための空港には一切協力はできない」と語るように、三里塚空港は、ブルジョア階級のための空港である。侵略的性格をますますはつきりとあらわしている三里塚空港は、全世界のプロレタリア人民の名において粉碎されなければならない。プロレタリア国際主義の旗をさらに高く掲げ、一〇・一五現地集会に結集し、侵略反革命軍事空港粉碎よう。

二三年間にわたるたかいの中で、「反権力の砦」としての位置を三里塚闘争は築いてきた。これに対して日本帝国主義は、機動隊の暴力によって反対派を弾圧するとともに、「日本の国際化と繁栄のために空港が必要」というキャンペーンをくり返し、三里塚闘争への孤立化攻撃を続けてきた。

小川源さんははじめ反対同盟員が、「ひと握りのブルジョアのための空港には一切協力はできない」と語るように、三里塚空港は、ブルジョア階級のための空港である。侵略的性格をますますはつきりとあらわしている三里塚空港は、全世界のプロレタリア人民の名において粉碎されなければならない。プロレタリア国際主義の旗をさらに高く掲げ、一〇・一五現地集会に結集し、侵略反革命軍事空港粉碎よう。

三里塚一期工事強行の攻撃は、日本帝国主義の戦争準備の重要な一環である。

日帝ブルジョアジーにとって日米安保体制のもとで、いつでも軍事空港に転化しうる巨大空港の建設は、決定的に重要な位置をもっている。日帝は、自衛隊の海外派兵の策動を進めており、三里塚空港の軍事利用の可能性はいっそう高まっている。このかん日帝は、「西側民主主義陣営の一員としての自覚」のうえに、「テロ対策」「地域紛争の解決」（「テロ」や「地域紛争」とは帝国主義の支配に対する人民のたたかいに対する帝国主義の側の歪曲したとらえ方にほかならない）のために「国際的に貢献」しなければならないと宣伝している。このもとで日帝は、米軍とのいっそう緊密な協力体制をつくるとともに、自衛隊を「国連軍」の一員として「地域紛争の監視団の一員として派遣」するこ

かわらず、日帝・運輸省は、「事業認定から一〇年以上過ぎている現在も旧地主の買い受け権は発生していない。二〇年を過ぎても収用裁決は可能」という見解を発表している。またこれとともに特別措置法の適用の検討を進めている。

第一には「成田治安法」の適用攻撃である。さる八月二九日に運輸省は戦旗・共産同の団結小屋に対して成田治安法を適用し、使用禁止命令を通告した。この成田治安法（新東京国際空港の安全確保に関する緊急措置法）なるものは、空港周辺三kmの範囲にわたって「多数の暴力主義的破壊活動者の集合に利用される」場合に適用されるという許しがたいものである。そして今回、「この場所に常駐し、警察官に殴りかかったり、話し合いを拒否して空港工事の実力阻止を叫んでることなど」が適用の根拠とされている。すでに三里塚空港は、首都圏の米軍基地や自衛隊基地とともに統一の官制指揮のもとに置かれており、安保条約の中でも緊急時の軍用機の使用が明記されている。またことしの八月、千葉県警は「国際犯罪、テロ、外国人労働者問題」などへの対策と称して、三里塚空港対策のために三〇〇人の警察官の増員を要求した（現在は空警隊一五〇人が配備されている）。これらの事実をみても明らかのように、日帝は三里塚空港を、第三世界諸国に対する経済的な榨取・収奪の拠点としてうち固めつつ、同時に民族解放・社会主義勢力との攻防基地の役割を果たさせようとしている。

具体的な二期攻撃の第一は、強制収用策動である。すでにことしの二月二六日をもって空港建設の事業認定から満二〇年が経過するにも二期工事は暴力的に進められている。

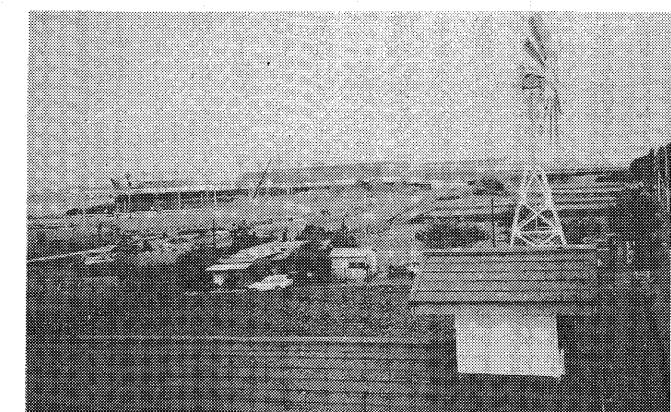
具体的な二期攻撃の第一は、強制収用策動である。すでにことしの二月二六日をもって空港建設の事業認定から満二〇年が経過するにも二期工事は暴力的に進められている。

第三は、地元自治体、保守議員、商工会議所などを動員した話し合い攻撃、反対同盟切り崩し攻撃である。空港公団は昨年一〇月に「用地交渉推進本部」を設置して話し合い攻撃を進めている。これと並行して工業団地建設、ゴルフ場開発、空港貨物基地建設、空港周辺駐車場設置などの空港関連事業とともにう利権によつて地元住民に対する買収が進められている。これによつて空港公団は、反対同盟農家に対する孤立化、切り崩しを進めようとしているのである。

われわれはこのことを決して政治過程主義的に主張しているのではない。三里塚闘争二〇余年の最良の成果を発展させていくために、先進的農民と先進的労働者・学生が、国際主義連帯運動と国際主義政治闘争へと断固として決起していくかねばならない。

## 10・15三里塚現地集会へ！

# 三里塚闘争のなか 闘争への断固たる



軒先まで進められる二期工事。二期工事を阻む木の根部落。

かわんとする先進的農民は、みずから農地が奪われるという理由からだけではなく、他の被抑圧人民への深い共感と、侵略反革命戦争出動への道を突き進む日帝への激しい憎悪から、あくまでも日帝・公團とたたかい抜こうとしてきた。ここにこそ、革命的左翼と結合した二〇余年の闘争の最良の成果が存在しており、多くの先進的労働者・学生の結集をかちとつてきた根拠が存在してきたのである。

本主義は帝国主義へと転化したばかりであり、他国への侵略反革命を開始したばかりであったしかし、それから二〇余年をへて、日帝は世界の基軸帝国主義に発展し、フィリピンをはじめ

とした第三世界の階級闘争と革命運動の正面敵として登場している。第三世界で生き、たたかっている彼らこそが、闘争の未来と彼らの生死をかけて、日本の労働者人民に対して、日帝の侵略反革命戦争出動を阻止せよ！三里塚軍事空港を粉碎せよ！と最も激しく要請しているのである。三里塚闘争が築き上げてきた最良の成果をさらに発展させていくためには、この国際主義的連帯の要請に応え、三里塚闘争を国際主義に立脚する闘争へと発展させていかねばならない。そして、三里塚軍事空港との闘争にとどまらず、侵略反革命戦争出動へと向かう日帝と正面からたたかう国際主義政治闘争へ、すべての先進的農民・労働者・学生の総決起を実現していかねばならない。

同時に、日帝の農業政策への反発を深めるわが国の農民大衆を、日帝との正面戦へと立ち上がらせていくためにもまた、三里塚の先進的農民こそが日帝支配下にある諸国との農民との国際主義的連帯戦に決起すべきである。日帝は、帝國主義間抗争が激しくなるとともに、国際競争

# プロレタリア的指導部を

中小の農家を切り捨ていこうとしている。そして、わが国が必要とする食料の多くを、農産物輸入自由化による歐米諸国からの輸入と、日帝の新植民地主義支配下にある第三世界諸国からの収奪によって確保しようとしている。このような日帝の農業政策は、多くの農民の反発を生みだし、農産物輸入自由化反対を要求する農民の運動が広がってきてている。しかし、農民として生き続けていくためのこのたたかいは、そのままでは、日帝に対して他の帝国主義諸国の要求に屈せず、もっと強硬な態度を取ることを要求し、日帝が全世界から収奪してきた膨大な富をもって農業への保護をおこなうようにならなければならぬ。

て社会主義を捨て去り、安保・自衛隊・対韓政策などの基本政策の根本的変更を強く要求してきた。そして、本当に政権につきたいのなら、自民党政府の政策を継承せよと要求してきた。社会党もまた、安保・自衛隊の維持など次々と新たな政策をうちだし、ブルジョアジーからの支持を得ようとしてきた。こうして準備されている連合政府とは、資本主義を擁護し、日帝ブルジョアジーの利益を擁護するものであることが明らかになってきている。われわれは、三里塚闘争を担いぬいてきた先進的農民や先進的労働者・学生の中にこそ、連合政府への最も厳格な批判を確立していくかねばならない。

反対同盟の内部に先進的農民のプロレタリア的指導部が創出されねばならないと提起してきた。それは、小生産手段所有者としての農民の動搖につけてこんで、日帝・公団による反対同盟切り崩し攻撃が常にかけられてきたことの総括に立つ提起であった。われわれは、農民としてのたたかいの将来を社会主義革命に向けたプロレタリアートの階級闘争の中に展望し、社会主義革命の戦士たらんとする先進的農民によってこそ被抑圧農民階級の闘争を最後まで発展させることができると確信してきた。われわれは、このような農民運動のプロレタリア的指導部の建設のためにもまた、先進的農民が国際主義的連帯闘争に決起していくことがぜひ必要だと考える。みずから農地を死守するだけではなく、より

抑圧された第三世界の農民のためにたたかい、第三世界における反帝民族解放・社会主義革命への連帯戦に先進的農民が決起することができるなら、それは、三里塚闘争のみならず、わが国の被抑圧農民階級の闘争の新たな発展をかなはずや切り開いていくものとなるであろう。

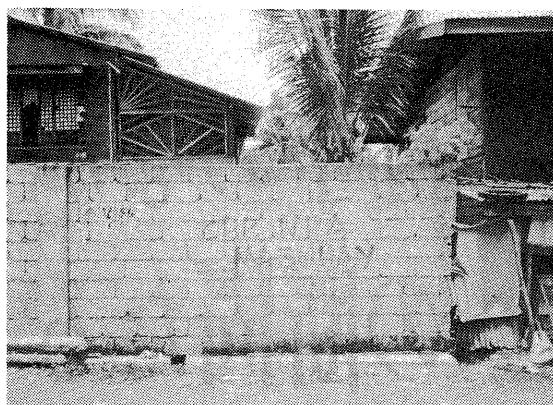
集会要項

名称▼事業認定失効・強制收回用粉碎  
0·5三里塚見地集会

日時 ▼ 10月15日(日)午後一時  
場所 ▼ 芝山町横堀・現闘本部前  
(主催)三里塚芝山連合空港反対同盟

することを意味していかざるをえない。そこには、帝国主義的排外主義に足をすくわれていく危険が内包されている。したがって、農産物輸入自由化に反対する農民は、同時に、日帝による第三世界農民からの収奪に反対し、新植民地主義支配からの解放を求めるこれらの農民の闘争への国際連帯へと決起していくことがぜひとも必要となつてゐるのである。

一〇・一五闘争における任務の第二は、社会党などによって準備されている連合政府の階級的本性とその未来を徹底して暴きだしていくことにある。そして、これと鮮明に分岐した階級闘争の道へと、先進的農民や労働者・学生の結集をかちとつていくことにある。



民家の塀に書かれた落書き。「CPP-NPA万歳！」と書かれている。

マニラの喧騒とスマッジを後に車で走る」と約二時間、豊かな水田と砂糖きび畑が続きカバオが寝そべっているのどかな農村地帯をぬけたらもうバターン半島である。バターン半島の名前は第二次大戦の「バターン死の行進」あまりにも有名である。「死の行進」とは、バターン半島で米軍との戦闘に勝った日本軍が、米軍とフィリピン人捕虜（兵隊以外の住民も多数含まれていたらしい）約七万五千人をバターン半島の先端の町マリベレスからサンフェルナンドまで、百キロ以上の道を五日間にわたって炎天下で行進させたものである。この途中で、捕虜はマラリアや疲労のため次々とたおれ、行進の後の路上には死体が墨々と残された。捕虜の大多是最終地点である中部ルソンのオードナル収容所にたどりつくことはできなかつたところに書かれていた。

マニラからバターン半島へ

マニラの喧騒とスマッジを後に車で走る」と約二時間、豊かな水田と砂糖きび畑が続きカバオが寝そべっているのどかな農村地帯をぬけたらもうバターン半島である。バターン半島の名前は第二次大戦の「バターン死の行進」あまりにも有名である。「死の行進」とは、バターン半島で米軍との戦闘に勝った日本軍が、米軍とフィリピン人捕虜（兵隊以外の住民も多数含まれていたらしい）約七万五千人をバターン半島の先端の町マリベレスからサンフェルナンドまで、百キロ以上の道を五日間にわたって炎天下で行進させたものである。この途中で、捕虜はマラリアや疲労のため次々とたおれ、行進の後の路上には死体が墨々と残された。捕虜の大多是最終地点である中部ルソンのオードナル収容所にたどりつくことはできなかつたところに書かれていた。

バターンの州都、バランガからさらに一時間、山道が続き、途中には石油精製所や火力発電所が見える。峠の頂上からマリベレスの町とバターン輸出加工区（BEPZ）が一望できる。

## ● 輸出加工区の町マリベレス ●

バターンにある石油精製所。マリベレスから車で20~30分の所にある。

一九七〇年、マルコス時代に作られたこの輸出加工区には、これまで、ミツミ電気、リコー、岩掘（ガスライター）、マリベレス・アパレル、ミクニ（帽子）、など多くの日本企業が進出した。しかし、八二年にBEPZ最大の工場だったフォード自動車が閉鎖したのをはじめ、この数年工場の閉鎖や撤退が続いている。荒れはてた工場の跡や整地したまま放置された雰囲気に包んでいる。

日本資本の評判はここでも最悪だった。「労働組合を認めない。三年に一度の組合選挙に軍や警察を使って介入する。長時間労働の上に休日もとらせない。労働争議が起きたら工場を閉鎖する。一日中立つたままで仕事をさせる」などの批判が次々と労働者の口から飛び出す。

バターン半島一帯はフィリピンの中でも階級闘争の強力な地方であると言われている。たしかに、バターン州では輸出加工区を中心とした労働運動をはじめ、農漁民の運動や反基地闘争などの住民各層の大衆的運動が分厚く組織されている。そしてそれはCPP-NPAの強力な支持基盤になっていると言われている。マニラ湾をはさんで、マニラ首都圏の真向かいにあるこの半島は、一九七〇年、マルコス政権時代に建設された「バターン輸出加工区」（BEPZ）があり、首都マニラに石油を供給する石油精製工場や火力発電所、そして現在は稼働していないが原子力発電所が存在している。さらに、スリビック米海軍基地の敷地の九〇%がこの半島の中にあります。このような経済的・軍事的要衝であるバターン半島における労働者人民のたたかいは、アキノ政権の「全面戦争政策」の下で、いま激しい「軍事化」攻撃にさらされている。バターン半島を中心に、フィリピン労働者のたたかいを報告する。

## ● マニラからバターン半島へ ●

マニラの喧騒とスマッジを後に車で走る」と約二時間、豊かな水田と砂糖きび畑が続きカバオが寝そべっているのどかな農村地帯をぬけたらもうバターン半島である。

いう。

ハイ・ウエイと並行して海ぞいに続く道が、この「死の行進」の道である。少し前までは、「死の行進の碑」がこの道ぞいに立っていたが、「日比友好の証」として撤去されたと聞く。それでも、道のあちこちで「死の行進〇〇km地点」と書かれた立て札を見ることがで

きる。

バターン州や中部ルソンの町並みでは家の壁や塀のいたるところに、「NPA・CPP

万歳！」とか「アキノ政権打倒！」「米軍基地をぶつぶせ！」と赤いペンキで書かれた落書きが目につく。「警察は落書きの上に黒いペンキで×印を書いて回っているがおつかないよ！」と一人の農民が笑って説明してくれた。

# LIC戦略下の労働運動

## ● フィリピンレポート ●

### 「労働者の团结だけが唯一のよりどころ……」



そんな日系企業の一つ、マリベレス・アパレル・コーポレーション（MAC）の労働者が長期間争議中であることを、八月に放送されたNHKの特集番組で知つて驚いた。マリベレス・アパレルは日本のセンガ・メンズ・ウェアと台湾資本とフィリピン資本（これはほとんど名目のみ）の合弁会社である。詳しく話を聞いてみるとBEPZの労働運動破壊の典型的な表れの一つであることがわかる。

## MAC労働者の一人は語る

MACの争議は、昨年末から始まつたんだ。

理由は①年末のボーナスが支給されなかつた。②会社が労働者から集めた社会保険料を社会保険庁に納めず横領していた③賃金の遅配、この三点に対し労働者の怒りが爆発した。これまでにも同じようなやり口で労働者からしぶり取つてきたからね。

年明けには、社会保険料とボーナスの分割払いを取り決めた労働協約を結んだけれど、会社はこの協約を一向に守らうとしなかつたので、今年の春に再度三日間のストをかまえて抗議したところ、会社は突然工場を休業してしまつたんだ。労組側の粘り強い交渉と工場再会のための大幅な譲歩にもかかわらず、五月二六日から会社は三ヶ月の休業に入つてしまつた。

労働者の大半は他の地方や田舎に行って、とにかく生きのびるための仕事をさがはじめた。八月末にやっと新しい労働協約を結んで工場を再開させたけど、会社は「二四時間以内に工場に戻つてきた者だけ再雇用する」と宣言して、それ以降に戻つてきた者をしめ出してしまつた。それがいま工場の前に集まつてゐる多数の労働者たちだ。遠い地方から二四時間で帰つてくるなんて不可能なことを会社は首切りの理由にしている。約三千人いた労働者が二千人以下に減つてしまつた。連日、数百人の労働者が工場前で出勤闘争を続けている。組合は彼らを再度雇い入れるように会社と交渉中。

休業中の三ヶ月間の賃金はもちろん、休業前二週間分の賃金もまだ支払われていない。

## 工場移転で地域運動を解体

BEPZの労働運動はフィリピン屈指の強力さを誇っている。

「工場がかたまつてゐるから、労働者は企業を越えて単一に団結しやすいの」と一人の労働者は語る。

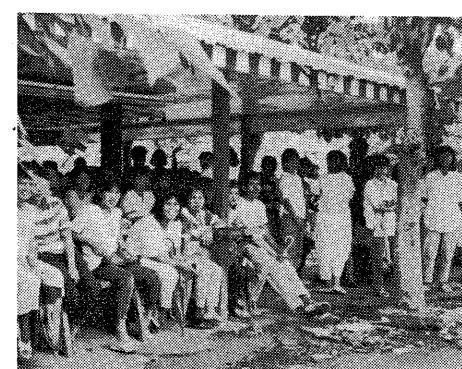
BEPZにはフィリピンの各地から職を求めて若者が集まつてくる。彼らは、共同寮や町の食堂で日々の働く工場の状況や問題を日常的に情報交換し、争議が起これば地域ぐるみで支えている。政治的な問題や、全体に関わる問題では地域ぐるみでゼネストもやる。

このような地域の單一の団結こそBEPZの労働運動の強さの秘訣だ。しかし、アキノ政権になってから四年目を迎えて、このBEPZにも大きな変化がおこつてゐる。

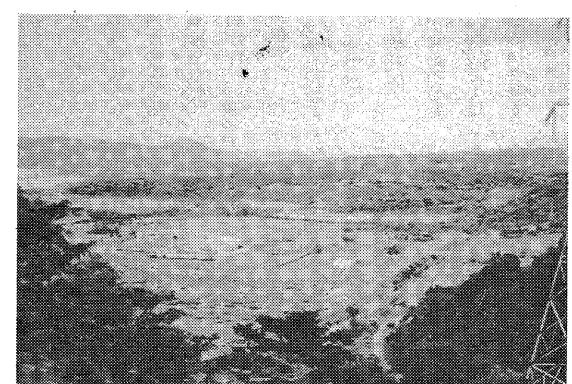
労働運動に対する攻撃は、軍を使つた弾圧だけではない。工場そのものをこの地域から移転することでBEPZの労働運動を解体しようとする攻撃が強まつてゐる。

社会保険料だけは会社に納めさせたので、社会保険事務所の融資がやつと受けられるようになった。みんな社会保険事務所で金を借りてどうにか食いつないでいるあります。会社はマニラにも新しく工場を作つて、反労組的な者を優先してそちらの工場に引き抜いていった。日本の本社は、最近ではMACへの発注を減らして、マニラ工場の方で主に生産をはじめている。資本は「労働争議が激しくなればいつでも撤退するぞ」と労働者を脅している。

労働協約には、そのつど、市長や労働大臣が立会いサインをしているが会社は平氣で反故にしている。もちろん裁判にも訴えてみたけど、この会社の資本家はフィリピンの政界と太いパイプを持つてるので、もみ消されてしまった。法律も政治家も、あてになるものはない。労働者の団結だけが唯一のよりどころだよ。



MAC工場の前で。しめ出された労働者は毎日集つて抗議行動を行つてゐる。



輸出加工区の町マリベレス。この小さな町にこの夏、2000人もの国軍が配備された。

かつてマルコスは輸出加工区に外国企業を誘致するために、輸出加工区での特別の優遇政策をとつた。しかしアキノ政権は、外国企業の投資を促進するための優遇政策を輸出加工区だけでなく、フィリピン全土に拡大したために、すでにBEPZに工場を持つてゐる。

今年になつて労働法が改悪された。「ヘレラ法」と呼ばれている。ヘレラは御用組合として悪名高いTUCPの元議長で今回の労働法改悪を中心で進めた人物の名である。

この改悪労働法も、BEPZをはじめ全国の戦闘的労働運動に深刻な影響を与えている。ヘレラ法は、①スト投票の成立条件を厳しくして、ストをしにくくする②労組の財政管理を強化し、他の労組や団体との間の財政面の支援関係を規制する③ピケット・ラインへの政府関係者の出入りを自由にしスト破りを容易にする④組合員資格を変更したことによって、資本は労組の上部団体確認選挙（労組結成時から三年に一回行われるもので、どこのナショナルセンターに所属するのかを労働者の全員投票で決定する）の直前に資本の言いなりになる労働者を大量に雇い入れ、票を左右する、というまったく反労働者的なものである。

たたかいで好意的な周辺住民への切り崩しオルグが強まり、戦闘的労働組合との間で、町中に大オルグ合戦がくり広げられているといふ。労働運動活動家には尾行がつき、事務所には日常的に張り込みが行われている。これらを見るだけでも、この間のバターン半島における「軍事化」の進行がわかる。

これらの攻撃の強化は米帝のLICの影響だろうかとたずねたところ、女性労働者の一人は「当然大きな影響を与えています。でもこうした軍や警察の動向だけではなく、最近では教会も資本の側に利用されています。毎

警察が私服で常時徘徊しているし、労働者の

朝工場内でミサをひらき、労働者の苦しみは信仰によってのみ救われるといった説教を労働者に聞かせて、労働者のたたかいの気勢を削ごうとしているのです。ミツミ電気や「I G M C」、「A S I」などの工場ではすでにG M C

アキノ政権の「全面戦争政策」によって、フィリピン全土で「軍事化」の風が吹き荒れている。アキノは「九一年までにすべての反政府勢力を根絶する」と宣言し、がむしゃらに階級闘争弾圧に乗り出している。フィリピンの活動家たちが「軍事化」と言う場合、単に国軍の強化のみを意味しているわけではない。在比米軍の暗躍やCAFUG(反共自警団)によるテロや虐殺、さらに米

じまっているし、他の会社にも広がりつつあります。こうした精神的な労働運動破壊も、決して見過ごすことのできないL I Cの影響だと「言えます」と話してくれた。

米帝のL I C戦略に基づいて発動された、アキノ政権の「全面戦争政策」によって、フィリピン全土で「軍事化」の風が吹き荒れている。アキノは「九一年までにすべての反政府勢力を根絶する」と宣言し、がむしゃらに階級闘争弾圧に乗り出している。

フィリピンの活動家たちが「軍事化」と言う場合、単に国軍の強化のみを意味しているわけではない。在比米軍の暗躍やCAFUG(反共自警団)によるテロや虐殺、さらに米

帝とアキノ政権がくり広げるすべての反共キヤンペーンや経済政策までも含む広い意味で「軍事化」は語られている。

この「軍事化」の進行を見ると、米帝のL I C戦略に基づく、フィリピンにおける階級闘争・革命運動弾圧がますます強化されていることがわかる。日本帝国主義は、ODAをはじめ経済的、政治的にこの攻撃を支える強力な一翼を占めている。

日帝、アキノ政権の反革命弾圧に対する阻止するたたかいは、緊急の課題である。

## ●軍事化支える日本の「援助」●

### 9.9の全労協(準)の結成に五百人

全労協(全国労働組合連絡協議会)

準備会の結成大会は9月9日、東京・国労会館大ホールにおいて開催された。

当日は一四都府県、五団体、五〇〇人が参加し、会場は文字通りふれかえた。議事は二月九日の結成大会開催を決定し、その間の活動方針と役員を確認して終了した。役員として、議長に宮坂国労書記長が選出され、全労協としての一歩が具体的に踏み出された。



新たな一步を踏み出した結成大会(9月9日)

多くの経済主義的弱点をはらみながらも、まぎりなりに戦後の労働運動を牽引し、反戦平和闘争をはじめてきた総評が解体させられ、「連合」が日本労働運動の帝国主義的制圧をおこなうという状況の中であって、小さな塊であったとしても「反連合・非統一労組懇」を掲げて全労協が一步を踏み出したことのもつ意味は大きい。

政府・資本からの直接の弾圧に直面しながらたたかい続けている労働の参加にも見られるように、全労協がたたかう労組の結集として建設されようとしているからである。全労協は原則的な労働運動を追求しようと多くの労働者を結集し、日々

それらとのたたかいをかいくぐりながら、実際的な運動を通して、総評の負の遺産を清算し、新しい労働運動を地域からまき起こし、中小・未だつかれた組織性を持ちながらの出発であります。すでにわれわれが指摘してきたように、総評の厳密な総括にもとどまる危険性を持ちながらの出発であります。

本階級闘争の労働運動拠点になるべく努力せねばならない重大な任務をもつて、全労協は二月には正

式に発足する。「連合」の帝国主義がら、実際的な運動を通して、総評の負の遺産を清算し、新しい労働運動を地域からまき起こし、中小・未だつかれた組織性を持ちながらの出発であります。すでにわれわれが指摘してきたように、総評の厳密な総括にもとどまる危険性を持ちながらの出発であります。

本階級闘争の労働運動拠点になるべく努力せねばならない重大な任務をもつて、全労協は二月には正

## 10・23～24連続闘争へ

「日の丸」裁判勝利・沖縄支援共闘会議結成!

9月20日、「平和のための読谷村実行委」や、「天皇の来沖に反対する中部住民会議」など、沖縄において知花公判支援闘争を担い続けてきている六団体の呼びかけで、「日の丸」裁判勝利沖縄支援共闘会議が結成された。

全労協が進めようとする運動は今後とも政府・資本・「連合」からさまざまな弾圧や妨害を受けるだろう。

「日の丸」裁判勝利・沖縄支援共闘会議結成! 10・23～24連続闘争へ

「日の丸」裁判勝利・沖縄支援共闘会議結成! 10・23～24連続闘争へ



「死の行進出発点」の公園を管理する老人。「この場所を忘れないでほしい」と

いまいるし、他の会社にも広がりつつあります。こうした精神的な労働運動破壊も、決して見過ごすことのできないL I Cの影響

だと「言えます」と話してくれた。

帝とアキノ政権がくり広げるすべての反共キヤンペーンや経済政策までも含む広い意味で「軍事化」は語られている。

この「軍事化」の進行を見ると、米帝のL I C戦略に基づく、フィリピンにおける階級闘争・革命運動弾圧がますます強化されています。

これが日本帝国主義は、ODAをはじめ経済的、政治的にこの攻撃を支える強

力な一翼を占めている。

日帝、アキノ政権の反革命弾圧に対する

阻止するたたかいは、緊急の課題である。

いまいるし、他の会社にも広がりつつあります。こうした精神的な労働運動破壊も、決して見過ごすことのできないL I Cの影響

だと「言えます」と話してくれた。

帝とアキノ政権がくり広げるすべての反共キヤンペーンや経済政策までも含む広い意味で「軍事化」は語られている。

この「軍事化」の進行を見ると、米帝のL I C戦略に基づく、フィリピンにおける階級闘争・革命運動弾圧がますます強化されています。

これが日本帝国主義は、ODAを

はじめ経済的、政治的にこの攻撃を支える強

力な一翼を占めている。

日帝、アキノ政権の反革命弾圧に対する

阻止するたたかいは、緊急の課題である。

いまいるし、他の会社にも広がりつつあります。こうした精神的な労働運動破壊も、決して見過ごすことのできないL I Cの影響

だと「言えます」と話してくれた。

帝とアキノ政権がくり広げるすべての反共キヤンペーンや経済政策までも含む広い意味で「軍事化」は語られている。

この「軍事化」の進行を見ると、米帝のL I C戦略に基づく、フィリピンにおける階級闘争・革命運動弾圧がますます強化されています。

これが日本帝国主義は、ODAを

はじめ経済的、政治的にこの攻撃を支える強

力な一翼を占めている。

日帝、アキノ政権の反革命弾圧に対する

阻止するたたかいは、緊急の課題である。

いまいるし、他の会社にも広がりつつあります。こうした精神的な労働運動破壊も、決して見過ごすことのできないL I Cの影響

だと「言えます」と話してくれた。

帝とアキノ政権がくり広げるすべての反共キヤンペーンや経済政策までも含む広い意味で「軍事化」は語られている。

この「軍事化」の進行を見ると、米帝のL I C戦略に基づく、フィリピンにおける階級闘争・革命運動弾圧がますます強化されています。

これが日本帝国主義は、ODAを

はじめ経済的、政治的にこの攻撃を支える強

力な一翼を占めている。

日帝、アキノ政権の反革命弾圧に対する

阻止するたたかいは、緊急の課題である。

いまいるし、他の会社にも広がりつつあります。こうした精神的な労働運動破壊も、決して見過ごすことのできないL I Cの影響

だと「言えます」と話してくれた。

帝とアキノ政権がくり広げるすべての反共キヤンペーンや経済政策までも含む広い意味で「軍事化」は語られている。

この「軍事化」の進行を見ると、米帝のL I C戦略に基づく、フィリピンにおける階級闘争・革命運動弾圧がますます強化されています。

これが日本帝国主義は、ODAを

はじめ経済的、政治的にこの攻撃を支える強

力な一翼を占めている。

日帝、アキノ政権の反革命弾圧に対する

阻止するたたかいは、緊急の課題である。

いまいるし、他の会社にも広がりつつあります。こうした精神的な労働運動破壊も、決して見過ごすことのできないL I Cの影響

だと「言えます」と話してくれた。

帝とアキノ政権がくり広げるすべての反共キヤンペーンや経済政策までも含む広い意味で「軍事化」は語られている。

この「軍事化」の進行を見ると、米帝のL I C戦略に基づく、フィリピンにおける階級闘争・革命運動弾圧がますます強化されています。

これが日本帝国主義は、ODAを

はじめ経済的、政治的にこの攻撃を支える強

力な一翼を占めている。

日帝、アキノ政権の反革命弾圧に対する

阻止するたたかいは、緊急の課題である。

いまいるし、他の会社にも広がりつつあります。こうした精神的な労働運動破壊も、決して見過ごすことのできないL I Cの影響

だと「言えます」と話してくれた。

帝とアキノ政権がくり広げるすべての反共キヤンペーンや経済政策までも含む広い意味で「軍事化」は語られている。

この「軍事化」の進行を見ると、米帝のL I C戦略に基づく、フィリピンにおける階級闘争・革命運動弾圧がますます強化されています。

これが日本帝国主義は、ODAを

はじめ経済的、政治的にこの攻撃を支える強

力な一翼を占めている。

日帝、アキノ政権の反革命弾圧に対する

阻止するたたかいは、緊急の課題である。

いまいるし、他の会社にも広がりつつあります。こうした精神的な労働運動破壊も、決して見過ごすことのできないL I Cの影響

だと「言えます」と話してくれた。

帝とアキノ政権がくり広げるすべての反共キヤンペーンや経済政策までも含む広い意味で「軍事化」は語られている。

この「軍事化」の進行を見ると、米帝のL I C戦略に基づく、フィリピンにおける階級闘争・革命運動弾圧がますます強化されています。

これが日本帝国主義は、ODAを

はじめ経済的、政治的にこの攻撃を支える強

力な一翼を占めている。

日帝、アキノ政権の反革命弾圧に対する

阻止するたたかいは、緊急の課題である。

いまいるし、他の会社にも広がりつつあります。こうした精神的な労働運動破壊も、決して見過ごすことのできないL I Cの影響

だと「言えます」と話してくれた。

帝とアキノ政権がくり広げるすべての反共キヤンペーンや経済政策までも含む広い意味で「軍事化」は語られている。

この「軍事化」の進行を見ると、米帝のL I C戦略に基づく、フィリピンにおける階級闘争・革命運動弾圧がますます強化されています。

これが日本帝国主義は、ODAを

はじめ経済的、政治的にこの攻撃を支える強

力な一翼を占めている。

日帝、アキノ政権の反革命弾圧に対する

阻止するたたかいは、緊急の課題である。

いまいるし、他の会社にも広がりつつあります。こうした精神的な労働運動破壊も、決して見過ごすことのできないL I Cの影響

だと「言えます」と話してくれた。

帝とアキノ政権がくり広げるすべての反共キヤンペーンや経済政策までも含む広い意味で「軍事化」は語られている。

この「軍事化」の進行を見ると、米帝のL I C戦略に基づく、フィリピンにおける階級闘争・革命運動弾圧がますます強化されています。

これが日本帝国主義は、ODAを

はじめ経済的、政治的にこの攻撃を支える強

力な一翼を占めている。

日帝、アキノ政権の反革命弾圧に対する

阻止するたたかいは、緊急の課題である。

いまいるし、他の会社にも広がりつつあります。こうした精神的な労働運動破壊も、決して見過ごすことのできないL I Cの影響

だと「言えます」と話してくれた。

帝とアキノ政権がくり広げるすべての反共キヤンペーンや経済政策までも含む広い意味で「軍事化」は語られている。

この「軍事化」の進行を見ると、米帝のL I C戦略に基づく、フィリピンにおける階級闘争・革命運動弾圧がますます強化されています。

これが日本帝国主義は、ODAを

はじめ経済的、政治的にこの攻撃を支える強

力な一翼を占めている。

日帝、アキノ政権の反革命弾圧に対する

阻止するたたかいは、緊急の課題である。

いまいるし、他の会社にも広がりつつあります。こうした精神的な労働運動破壊も、決して見過ごすことのできないL I Cの影響

だと「言えます」と話してくれた。

帝とアキノ政権がくり広げるすべての反共キヤンペーンや経済政策までも含む広い意味で「軍事化」は語られている。

この「軍事化」の進行を見ると、米帝のL I C戦略に基づく、フィリピンにおける階級闘争・革命運動弾圧がますます強化されています。

これが日本帝国主義は、ODAを

はじめ経済的、政治的にこの攻撃を支える強

力な一翼を占めている。

日帝、アキノ政権の反革命弾圧に対する

阻止するたたかいは、緊急の課題である。

いまいるし、他の会社にも広がりつつあります。こうした精神的な労働運動破壊も、決して見過ごすことのできないL I Cの影響